

〈コラム〉

河合先生のご退職に寄せて

関根 紀子*

Noriko ICHINOSEKI-SEKINE*

ご定年退職誠にありがとうございます。ここに至るまでには沢山の計り知れないご苦労があったことと思いますが、長い間、教員としてまた校医として、我々を支えてくださりましてありがとうございました。心からのお祝いとともに感謝申し上げます。

私が助教として河合研究室にてお世話になったのは1年半という短い間でしたが、その前後に渡り先生には大変お世話になりました。いくつか振り返ってみたいと思います。

先生との最初の出会いは運動生理学実験実習でした。オリエンテーションでの先生のお話で、初めて川崎病の存在を知りました。順天堂で行われている運動生理学実験実習は、最大酸素摂取量を全員測定するという全国的にもまれな内容も取り扱っており、循環器がご専門の河合先生のご指導の下メディカルチェックを行うことで、事故無く安全に実習を行うことができました。様々な学生がいるなかで、激しい運動を行うことが困難な場合は、先生に特別プロトコルを作成していただき、「験者と被験者の両方を経験する」という実習の方針を、全ての学生が何らかの形で達成することができました。学生も教員もなかなか大変な実習ではありましたが、先生のお力添えをいただき無事に執り行うことができました。

医学概論では、先生の講義のサポートを勤める傍ら、私自身も非常に勉強させていただくことができました。私はスポーツ科学専門の学部出身ではない

こともあり、順天堂大学のような医学系講義の受講経験が無かったため、非常に興味深く参加することができました。受講生の私語を注意する河合先生の声が毎回教室に響いていたのも今となっては良い思い出です。運動処方では、講義と実習の両方を経験させていただきました。高齢者の疑似体験に戸惑う学生をサポートしながら私自身も学ぶことができ、今後講義や実習を行う上で非常に参考になりました。

講義や実習、学生指導と、河合先生は常に穏やかに学生に接し、叱るときですら指摘内容の厳しさを感じさせないような余裕を漂わせ、ある意味飄々とした佇まいで周りを見つめていたように思います。自身の研究のため研究室を空けることが多かった私にも、先生は寛大に接してくださいましたし、研究室所属の学生達との和気藹々とした時間が流れる研究室でした。

河合先生のお力添えをいただき、現在私は放送大学にて准教授を務めさせていただいています。27年度からは本学大学院での河合先生のラジオ講義が始まる予定となっており、今から楽しみにしているところです。順天堂を退職後もご活躍が続く河合先生を、担当専任教員として未熟ながらサポートしていければと思っています。

突然体調を崩された際には医師としての本領を発揮され、見事な復活を遂げた河合先生ではありますが、ご退職後はご自分の時間を楽しみながらお過ごしいただければ嬉しく思います。更なるご活躍とご健康をお祈りして、僭越ながら私からのご退職のメッセージとさせていただきます。

* 放送大学教養学部生活と福祉コース
The Open University of Japan, Faculty of Liberal Arts,
Living and Welfare